

駒澤大学名誉教授

佐々木宏幹

# 「老い」について

1

# 仏教企画通信

発行日 | 平成30年9月1日

# 53

発行所 | 有限会社 仏教企画  
〒252-0113  
神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5  
Tel.042-703-8641  
Fax.042-783-0989

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣  
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

## はじめに

「老い」の話について国語辞典を繰ると、「老いること。年をとること。また老人。」とあり、例文として「老いを送る」(老後の生活をする。余生を送る)と「老いを養う」(老体をいたわって静養する。また老人を手厚く扱う)を挙げている。

さらに「老い屈まる」(年をとって腰かがむ)、「老い頷る」(年をとって衰弱する。おいはれる)、「老い声」(老い衰えた声。盛りをすぎた声)、「老い心」(老人に特有のこころ。おいごと)、「老い込む」(すっかり年をとる。老衰)、「老い先」(年をとった人のこれからの余生)、「老いさぶ」(年寄って老衰の度が進む。おいこむ)、「老いさらばえる」(年をとってよぼよぼになる。甚だしく老衰する)、「老い舌」(老人の舌。歯が落ちてものを言うときに見えがちになる舌)、「老い痴る」(老いぼれる。老いほうける)、「老い就く」(老人になる。年をとってくる。年よりじみる)、「老い耄れる」(年老いて頭や体のはたらきが鈍くなる)などがある。

ちなみに『ことわざ故事金

言小事典』には、「老い木は曲がらぬ」(老木は弾力がなくなつて、曲げようとしてもなかなか曲がらない。無理に曲げると折れる。同様に老人になると弾力がなくなり、はたの者がこれを変えようとしてもだめである。老人の頑固さにあいそをつかした諺)、「老いては子に従え」(年をとると体が弱り、考え方も古くなる。まず子供の意見に従うがよい)、「老いたる馬の道しるべ」(老馬はよく道を知っている。経験のある者は物事の方針を誤らない)が出てくる。

右に列挙した「老い」という語の意味を要約すると、「人は「老い」により心身ともに老衰するが、しかし老人の経験知(智)は、若い世代にとって貴重である」ということになるうか。

どんなに元気な人も年をとれば「老いさらばえる」のである。

仏教ではこうした事象を「無常」(万象ごとごとく滅してとどまることなく移り変わる)ことと

世間のすべてが無常であるのに、私たちは「常住」(生滅・変化なく、永久に存在し続けること)を求め願う。ところが現実には決してそうはいかないから「苦」(思いどおりにならないことが生じると仏教は説く。

この世に生まれた者は必ず年をとり、病をえて死にいたる。「生老病死」である。

「若き日はや夢と過ぎ 友らはみな世を去りて 彼方の佳き地に眠り かすかに我を呼ぶ オールド・ブラック・ジョー 我も行かん年老いたれば かすかに我を呼ぶ オール

## 高齢化社会

ルド・ブラック・ジョー」(「オールド・ブラック・ジョー」。「老い」に東西はない。

「偶感あれこれ⑧」で私は、日本老年学会が平成二十九年に発表した「高齢者の定義」では、六十五歳から七十四歳までを「準高齢者」、七十五歳から八十九歳までを「高齢者」、九十歳以上を「超高齢者」と呼ぶことを記した。

この定義を目にして、高齢者である私は、はたして「超高齢者」までを生きられるかどうかとの思いがふと脳裏を走った。と同時にひよつと思ひ浮かんだのが、ベラ・チャスラフスカさんのことであつた。この二月に韓国の平昌で開催された冬季オリンピック大会とも結びついていたのかもしれない。

周知のようにチャスラフスカさんは、旧チェコスロバキアの出身で一九六四年(昭和三十九)の東京五輪の体操競技で三つの金メダルに輝き、「五輪の名花」、「東京の恋人」などともて囃された人である。今から五十四年前に、両手を広げ右足をほぼ垂直に上げて彼女の姿が何とも恰好よくて、今も私の眼底にある。その彼女は「朝日新聞」に載つたのは二〇一六年(平成二十八)七月二十四日(日)の日刊である。記事の題は「二〇二〇年五輪 雲の上から大好きな日本に手を振りますね」であつた。もう二年も前になる。

そこには、東京五輪時の若さ溢れる彼女と、七十四歳になつて顔じゅう皺だらけになつた現在の彼女の写真があつた。彼女は全身癌に冒され、医師から死の覚悟をもてと宣告されていた。

彼女が朝日の記者と逢つたのは二〇一六年の六月下旬であつたが、同年八月三十日に彼女はこの世を去つた。

死の約二ヶ月前に撮られた彼女の姿は、老いてはいたがまさか二ヵ月後に天国に逝くとはとても思えなかつた。彼女が最後に来日したのは二〇一一年の東日本大震災のときで、被災地を訪れて被災者たちを励まして帰つたという。

チャスラフスカさんのファン

の一人である私は、彼女があつてもよいから大好きなこの国に来て欲しかったと思うこと頻りにあつた。

「杖を突く」で思い出すのは、昭和十二〜三年頃に歌われた「九段の母」(石松秋三作詞・能代八郎作曲)という歌である。「上野駅から九段まで 勝手に知らないじれつたさ 杖を頼りに一日がかり 件来たぞや会いに来た」。日中戦争で戦死した息子が二十代から三十代であるとして、その母はおそらく四十代から六十代であつたらうか。とすれば先に述べた「準高齢者」に当たるように思う。

当時六十五歳

になつた男女は、結婚が早かつたこともあり、総じて「お爺ちゃん」であり「お婆ちゃん」であつた。

人によって異なるが、今日五十代、六十代の男女を爺ちゃん婆ちゃん扱いしたら、多分腹を立てられること必定であろう。

七十歳、八十歳になつても企業の第一線でリーダーとして活躍している人は少なくない。彼らは長い間の経験と知識または知恵によって、若い世代では果たせない役割を担つており、貴重な存在とされている。

しかし「高齢化社会」には問題もある。

すべての高齢者が第一線で働ける訳ではない。どんなに元気な人でも「老・病・死」を免れることはできないからである。

仏教ではこれを「無常」と呼んでいることは、すでに触れた。

前号でも引用したが、作家の五木寛之氏は「老い」について大要以下のように述べている。

「人間はある一定の年齢を超えると、生理的にも肉体的に



も衰えていく。下肢の力が弱り、転びやすくなる。嚥下も苦手になり、薬を飲んでも水を飲んでも喉に詰まったり気管に入ったりする。聴力・視力・持続力・記憶力・集中力なども半減してしまふ。それを認めず、「気持ちの持ち方次第で青春は続く」とか「前向きに頑張ろう」などとスロガンを掲げるのは、戦時中に竹槍でアメリカ軍と戦えと訓練をさせられたのと変わりない。「孤独のすすめ―人生後半の生き方」中公新書、二〇一七。まったく同感である。

**藤木** やり方によっては継続できた、そういう検討が生かされなかったわけですね。**A氏** 本当にね。何年か前の学長が将来、大学をつぶすという、そういう気持ちですべて対応していた。彼が着任したときには私たちが食事会を開いて、これから大学のために私らも一生懸命やると、そういうコミュニケーションを取ったわけですね。学校へも何



北海道の三氏に聞く

# 苦小牧駒澤大学はなぜ失敗したか

聞き手 藤木隆宣

苦小牧駒澤大学

回も行って、こういうふうにしたほうがいいんじゃないですかと提言しても、いやいやこういうふうにする、こういうふうには全部はねつける。職員方がこういうふうにする、というところはしないと、切った。**藤木** その学長が、ですか。**B氏** そうです。苦小牧駒澤大学の学長に選任されて、東京から来たK学長です。苦小牧駒澤大学を曹洞宗から引き離そうという考えの息がかかっているのではないかと、初めからつぶすつもりでいたのではないかと。苦小牧の大学も要らないし、高校も要らない、それから岩見沢も、三つとも要らないと言った。岩見沢はやっぱり生徒が集まらなくて廃校になってしまいましたが、苦小牧の高校だけは今七百人ぐらいの生徒がいて、何とか頑張っているところですね。

**藤木** 廃校にしようと思われていたというの。**B氏** 十二、三年前になりまして、当時の駒大の学長が同窓会で札幌へ来たんです。懇親会後の二次会の席で、その時期は何か駒澤も立ち上がったときなのでいろいろと話していたら、飲んだ勢いで、もう駒澤の北海道は全部要らないんだとペロツと口を滑らせた。今考えると、既に苦小牧駒澤大学を、曹洞宗や駒澤大学本校から離そうと考えていたのではないかと。

**藤木** 十二、三年ぐらい前と聞いて、デリバティブで一五四億円の大きな損失を出した時ですかね。**A氏** ええ、その頃です。**藤木** そういうところが駒澤を狙っている部分、ありますね。本校だって危ない。**B氏** とにかく宗門から離れたいと。だから宗門関係の理事、理事長は要らないというふうな言い方をしていました。いうと、デリバティブで一五四億円の大きな損失を出した時ですかね。**A氏** ええ、その頃です。**藤木** そういうところが駒澤を狙っている部分、ありますね。本校だって危ない。**B氏** とにかく宗門から離れたいと。だから宗門関係の理事、理事長は要らないというふうな言い方をしていました。

**藤木** そうなると、完全な乗っ取り計画ですよ。駒澤大学というのは建学の理念も歴史もあるわけで、それは曹洞宗がきちっと守っていかないと、教えがしっかりあるのに、自分を出しきれていない、うしろ手。だから、そういう計画を許してしまう。その辺はもうちょっと、禅仏教の地盤を強くしていかなくちゃいけないと思いませんか。**C氏** そうです。理事長になった人は、その点を十分認識して強い体制をつくって、曹洞宗と引き離そうとする勢力と対峙していかないと。ところが、今の理事長(前理事長)は完全に副学長に牛耳られて、**藤木** その辺の事情ですが、以前須川理事長がK副学長の言いなりになっていると聞きませんでした。K氏が来て、これも駄目だ、あれも駄目だと、理事長のようにやっていた。**A氏** ええ、完全に言いなりになってしまった。**藤木** それは理事長が何かK

とを切に想い出すのである。「老いの夢・想」とでも言えようか。パキスタンの北部辺境地帯に位置するギルギットやフンザでは、まるで桃源郷に入り込んだような経験を。ここはイスラム教国であるが、人びとの信仰の根っこは、ダヤールという宗教者を信奉する民族宗教であった。泊っていたのは普通の民家のようなホテルであったが、出遭った人々はみな微笑を絶やさず挨拶は合掌で「アッサラーム」とコーランの一句を口にした。たまたまある家族の幼児が下痢になった。日本人が来ている、きつと良薬を持っているだろうと思っただか、夜半に「薬を」と頼んできた。私は下痢止め剤を

を手渡した。翌日早朝、ホテルの庭がガヤガヤと騒がしいので出てみると、何と大勢の人々が大杖一杯にいろいろな果実を積んで持参したのである。「お蔭で子供は回復した」と言う。私は心から満足した。ギルギットはエレベレストに次ぐ高峰ナンガ・バルパットを仰ぐ高地にある。夏期でも夜は肌寒くなるが、あの星空の美しかったこと！日本では見たことのない星の数に感嘆し、天に向かって大の字に寝転んだまましばらく立ち上がれなかった。アフガニスタンはカブールの満月。そしてマレーシアのクアラランブルの夕焼け。今も脳裏を離れることがない。

「生かされなかった 苦駒大存続の思い」  
**藤木** 苦小牧駒澤大学が経営困難を理由に、学校法人京都育英館に無償で移管譲渡されたことになりました。平成三十年四月一日をもってということですので、このお話が掲載される時には既に譲渡は済んでいるわけです。どうしてこんなことになったか、今日はこの問題について、反対の立場からずつと関わってこられた皆さまに、その経緯についてお聞きしよう、北海道へうかがった次第です。なんとも残念なことになりましたね。

**A氏** 私らが一番やっぱり残念でなりません。苦小牧駒澤大学の創立については私たちが地鎮式、上棟式をやって、準備を全部させていた。導師は大学本部の理事長が務めましたけれども、でも、あれだけ立派なものが建ち上がったわけで、今でも、やり方一つによってはいくらでも生き延びられたと言う人がいるんですよ。

**藤木** やり方によっては継続できた、そういう検討が生かされなかったわけですね。**A氏** 本当にね。何年か前の学長が将来、大学をつぶすという、そういう気持ちですべて対応していた。彼が着任したときには私たちが食事会を開いて、これから大学のために私らも一生懸命やると、そういうコミュニケーションを取ったわけですね。学校へも何

も衰えていく。下肢の力が弱り、転びやすくなる。嚥下も苦手になり、薬を飲んでも水を飲んでも喉に詰まったり気管に入ったりする。聴力・視力・持続力・記憶力・集中力なども半減してしまふ。それを認めず、「気持ちの持ち方次第で青春は続く」とか「前向きに頑張ろう」などとスロガンを掲げるのは、戦時中に竹槍でアメリカ軍と戦えと訓練をさせられたのと変わりない。「孤独のすすめ―人生後半の生き方」中公新書、二〇一七。まったく同感である。

## 「老い」と私

まことに厚かましい話ではあるが、ここ何年間に私が経験している「老い」について記し、若い世代の人びとの参考にしてほしい。

私は今年満八十八歳、つまり米寿を迎えたが、お蔭さまでまあまあ元気に暮らしている。「まあまあ」と述べたのは、八十歳になった頃から身体のおちこちが傷んできたからである。

その頃、就寝中に胸苦しくなり、脈を取ったら「ドッキン、ドキドキ、ドッキン、ドキドキ」であった。不整脈と呼ばれる症状である。「ああ、ついに来たか」と感じた。仰向けの状態で深呼吸を繰り返してみたが、一向に治まらなかった。救急車を呼ぼうかと思っ

たが、あの「ピーポー、ピーポー」という嫌な音で近くの人びとに迷惑をかけるのを怖れた。朝になり静かに起きて洗面所に行き、歯を磨きだしたらあな不思議！、不整脈は去っていたのである。朝食を取っても変化なし。食後に親しい友人である藤

木隆宣師に電話で症状を告げたら、同師はすぐ病院で診断してもらおうべきと言った。車で迎えにきて下さった。一週間程度検査入院したが、結果は「異状ナシ」。ではあの「ドキドキ」は何？。医師曰く、「自律神経失調」ではないかと。そうそう、私は随分以前にも体調を崩し、掛りつけのI先生に診てもらったときも「神経症」と診断されたことがある。

いま「老い」の後期に入った私であるが、どうも幼少から付き纏って離れないのが「神経症」らしい。幼稚園の頃から夜眠れず、夜中に歩き廻ってはお姉さん(女中さん)を困らせ、祖父に怒鳴られることが多かった。この習性というか神経症的な性格は今でも変わらない。熟睡できないのである。老人は就寝中に何度も手洗いにいくというが、私は一回で済む。しかしその後熟睡に至ることはまずない。仕方ないので枕許に置いてある雑誌や小説、論文集などを目にする。しかし中々ところどころとしてこない。



朝方になってとるところが来て夢か現か分からない状態で甦れるのが過去の出来事である。俳聖芭蕉は晩年に「旅に病んで、夢は杜野を駆けめぐる」の名句を残したが、私の場合は「夢は彼の地を駆けめぐる」である。三十代、四十代に、宗教(文学)人類学を専攻して各地を訪れた私は、遠い調査地のこ

とを切に想い出すのである。「老いの夢・想」とでも言えようか。パキスタンの北部辺境地帯に位置するギルギットやフンザでは、まるで桃源郷に入り込んだような経験を。ここはイスラム教国であるが、人びとの信仰の根っこは、ダヤールという宗教者を信奉する民族宗教であった。泊っていたのは普通の民家のようなホテルであったが、出遭った人々はみな微笑を絶やさず挨拶は合掌で「アッサラーム」とコーランの一句を口にした。たまたまある家族の幼児が下痢になった。日本人が来ている、きつと良薬を持っているだろうと思っただか、夜半に「薬を」と頼んできた。私は下痢止め剤

を渡した。翌日早朝、ホテルの庭がガヤガヤと騒がしいので出てみると、何と大勢の人々が大杖一杯にいろいろな果実を積んで持参したのである。「お蔭で子供は回復した」と言う。私は心から満足した。ギルギットはエレベレストに次ぐ高峰ナンガ・バルパットを仰ぐ高地にある。夏期でも夜は肌寒くなるが、あの星空の美しかったこと！日本では見たことのない星の数に感嘆し、天に向かって大の字に寝転んだまましばらく立ち上がれなかった。アフガニスタンはカブールの満月。そしてマレーシアのクアラランブルの夕焼け。今も脳裏を離れることがない。

ギルギットは数年前、紛争に巻き込まれた。あの人なつっこい人たちは、どうなったろうか。無事を祈るのみである。あれから四十余年、私は年老いた。「星霜移り人は去り」(旧制一高校歌で、年々親しい人たちも少なくなってきた。私の父は三十七で、母は二十六で仏界の人になった。私が米寿になってもこうして原稿を書かせて頂いているのは、かかって早逝した両親の守護によると感じている。「命は光陰に移されて暫くも停め難し、紅顔いづくへか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし、熟観ずる所に往時の再び逢うべからざる多し」(修証義)。

## 禅仏教の教えがある 駒澤大学がある

**藤木** そうなると、完全な乗っ取り計画ですよ。駒澤大学というのは建学の理念も歴史もあるわけで、それは曹洞宗がきちっと守っていかないと、教えがしっかりあるのに、自分を出しきれていない、うしろ手。だから、そういう計画を許してしまう。その辺はもうちょっと、禅仏教の地盤を強くしていかなくちゃいけないと思いませんか。**C氏** そうです。理事長になった人は、その点を十分認識して強い体制をつくって、曹洞宗と引き離そうとする勢力と対峙していかないと。ところが、今の理事長(前理事長)は完全に副学長に牛耳られて、**藤木** その辺の事情ですが、以前須川理事長がK副学長の言いなりになっていると聞きませんでした。K氏が来て、これも駄目だ、あれも駄目だと、理事長のようにやっていた。**A氏** ええ、完全に言いなりになってしまった。**藤木** それは理事長が何かK



やる皆さんもそうだし、市もある意味、裏切られたという感じでしようね。

**C氏** そうです。だから市のほうも、私らはもう少し駒澤を押しつけてくれるかという期待もあったんですが、京都育英館が四年制大学できちっと生徒集めをするという契約書を出したら、やっぱりそっちのほうへ乗ったわけです。駒澤高校出身の市議会議員も私らと連絡を密にして、市議会でも随分突っ込んでくれたけれども、とにかく四年制大学は継続すると、新たに京都育英館がやっていくということになる。そっちのほうに安定性がある。別に市としても異存はないと、それでそんなり通ってしまった。

**藤木** そうなると、今のお話をずっと聞いておきますと、駒澤大学の理事会の情けなさや浮き彫りになりますね。駒澤大学の中の、そういう一部動きをつぶして、やっぱり本来あるべき姿の駒澤という部分を出せなかったわけですね。

**A氏** 本当にそうです。出せなかった。

**藤木** それぐらいにK氏あたりの勢力のほうが強くなっていった。

**B氏** 今回の問題を考えると、実は何人も絡んでないと思うんです。K氏と前理事長と、それからI氏、この三人です、極端に言いますとね。逆に考えれば、そう多数の人間が絡んでいたらこの話はこわれたかもしれない。あれだけの土地、建物を一切合切無償譲渡

です。あり得ない話ですよ。

**C氏** 建物の中の備品から何から、ただ仏教書だけは返還になるという話を聞きました。藤木 彼らにとつて必要ないですから。

**京都育英館にはいいことづくめの譲渡話**

**藤木** 京都育英館は日本に留学生を送り込む仕組みを持っていて、実績があるんですね。その上、今の大学の仕組みから言うと、留学生の受け入れに対し、文科省から補助金が出ます。授業料の半分以上が日本の税金で賄える。という事は育英館にしてみたら、中国の学生を日本のお金で学問させるわけですから、こないないことないじゃないですか。

さらに言うと、今度、東京二十三区における大学の受験者数の制限をする、要するに東京にはこれ以上増やさず、地方大学への間口を広げることにお金を使おうということなんです。だから世田谷区の駒澤大学には補助金が来ないけれども、苦小牧に駒澤があれば、こっちはお金が来たはずなんです。本当にタイミングが悪いときの譲渡話で、育英館にしてみれば、いろんな追い風を受けている、いいことづくめです。学校法人はすんととたてで手に入るし、中国の学生を送り込めるし、国の補助金も入るといいます。

**B氏** 早い話が、今はちよつとした運営資金さえ用意でき

れば、あとの学校経営はなんとかできるんですよ。

**藤木** 北海道での学校運営に關しても、彼らは栄でやっているから実証済みです。

**C氏** 北海道栄もいざれ一、二年後に大学の中に持つてくると思うんですよ。今の栄高校の生徒を駒澤大学の建物へ持つて来て、北海道栄高校とする。じゃあ白老の高校はどうするか。地元はそれをしないでくれと言っけども、校舎の耐震をきちつとして、全部寮にして中国人みんな連れて来て、そこに住まわせる。ですから、地元には活気が出ると、そんなふうの説明している。そして、そこから通わせる。

**藤木** 三月十四日に苦小牧駒澤大学に行きました時に、北海道栄高校と書かれた大きな五十人乗りのバスが、駒澤のキャンパスの入口に止まっていた。

**B氏** もうありましたか。

**藤木** ええ、私も見てびっくりした。

**A氏** 今年の三月三十一日まではまだ駒澤大学のものですけれども、もう少し細かく言うと、今の一年生が今年、二年生になります。四月一日からは、この二年生が卒業するまでは、名称は苦小牧駒澤大学ただし経営権は京都育英館ということなんです。ところが、職員が同窓会の事務局をやっているんで、この間ちょっと寄って彼と話したら、すでに栄の校長が理事なんです。で、今その人が全部仕切っているという。今年になってから、

学校の週一回の会議に必ず出てくるそうです。おかしいんじゃないか、三月三十一日まで栄のものじゃない、そう言ったんですが、京都育英館の人が入るいわれはないと思う。藤木 それを許すというのか、会議に出る理由というのは何でしょうかね。

**A氏** 分からないです、私も。そして教職員に、辞めたい人、残りたい人と、全部希望をとっている。ほとんどが残るようですが、二人かそこらは東京のほうの大学に引き取られるという。あと、駒澤一辺倒できたから私は辞めますという人も、また定年に近い人がばたんと辞めてしまったと、そういう話も聞いています。

**藤木** おっしゃる通りに、四月一日からということであれば分かりますけど、それ以前に仕切るといことはね。

**A氏** 大事な会議に必ず顔を出しているという、そのこと自体解せません。

**何としても苦小牧高校は守りたい**

**B氏** 今度、駒澤大学の学長が変わりましたね。

**藤木** そうです。長谷部学長になりました。

**B氏** 長谷部学長はこの問題に批判的だと聞いております。

**藤木** でしょうね。善なる人ですね、理性がある。

**B氏** それで学長の意向がだいぶ強く出て、窓際族に追いやられていた人間も学長のそばに戻りだしたとか。

仰っていました。ところが教化研修所のほうが一期生、二期生、三期生とだんだん増えてきました。何十人になったから、そこで世話役が必要だとなる。佐々木君、あんたやってくれないか。

**藤木** 先生は一期生ですか。

**佐々木** そうです。同期生はみんな年上ばかり、私が一番下でした。二十四、五にはなっていました。服部松斉、峯岸忠哉といった、のちに曹洞宗でも有名になる人が同期におられたわけです。

**文化人類学と出会い、大学で教えることに**

**佐々木** アメリカに行かれた山田禪師ですが、向こうで誰かお弟子さんができたせいかもしれない。こっちへ来いとは言わな。私に手紙をよこされて、文化人類学を学んで、その中でとくに宗教をやりたい。文化人類学というのはアメリカで戦後盛んになった学問で、日本に輸入されたばかりの本当に新しい学問でした。私のほうでも、布教化するといつたって、外国を知らないといけません。外国というものを知るための学問というのは、宗学や仏教学じゃ駄目なので、どんな学問があるだろうかと摸索しておったところで、ちょうど文化人類学というものに行き着いたところでした。

当時、大学院で文化人類学専攻があったのは東京大学と都立大学(現在の首都大学東京)の二つだけでした。今はあちこち広まって、東北大学にも

ありますけれどね。都立大というのは駒澤から歩いて行っただけで、ちょうど目黒の駅から上がったところにあつたんです。今、八王子に大校舎が建っています。東京都が持つていて唯一の大学だから、当時からとでも待遇はよかつた。ただ、大学院で文化人類学をやるには英語、ドイツ語、フランス語三カ国語のうち、二つができないと入れないというの。私は英文科を出ているから、英語は何とか読めたり書けたりしておつたんですね。それで都立大へ行って、人類学なるものの試験を受けました。何か、ルース・ベネディクトが日本の文化について書いたものを訳せという問題が出たので、それは私に訳せたわけですよ。入ってみると、ほとんどが国立大学を出た連中、駒澤からは私一人です。その後も駒澤からは、都立大の人類学に入った人はいませんから、だから幸せというか、僥倖ではあつたんですね。

それで、三年かけて修士論文を書き、博士課程に入つてまた三、四年おつてという。そのときにいた先生が、また宗教学では有名な古野清人という人です。学士院賞を受賞して学士院会員の先生が、九州大学から都立大に移つて来られた。ちょうど私がドクターコース(大学院博士課程)になったとき古野教授に師事して、また可愛がってくれましたね。九品仏(東京都世田谷区・浄真寺)の通称であり、駅名・周辺地域色にお宅があつて、「佐々木君

今日、九州の美味いものが入つたから食べにいらつしやい」というようなことをしょつちゅう言われた。息子さんが一人おられました。息子さんかこの大学の先生をしているはずですよ。

ドクターコースを出たときに、古野先生は「君、駒澤で学部の英語の非常勤講師なんかしてないで、人類学をやつたんだから、人類学を教えなさい」と言われる。駒澤に人類学の科目はありませんと答えると、「じゃ僕が学長に頼んであげるよ」と。それで、古野先生が駒澤へ話し合いに来られたときの学長が山田霊林先生だった。山田先生のほうから、「佐々木君が大変お世話になりました。ありがとうございます。分りました。文化人類学という科目を作りましょう」と約束してくださつたわけですよ。

今、駒澤では人類学という学科はないけれども、科目としてずっと残っていますね。仏教学部でも文化人類学を勉強できるようになっている。そんな話がありまして、それから人類学というのは日本だけの研究では駄目ですから、インド、ネパール、東南アジアにはよく出かけました。インドの調査では仏跡を参拝することができて、靈鷲山にも二度行ってあります。そこに石の座席みたいなものがあつて、お釈迦さまが腰をかけてお説法をなさつたという。ああ、ここで釈尊が説法なさつたのかと、涙が出るような思いをしたこともありますね。



**駒澤大学で文化人類学の講義ができるまで**

聞き手▶藤木隆宣

う若者に大変お世話になつた」という意味のことを序文に書いてくれた。それは大変うれしかったですね。

そのエイムズ先生にダマリ・エイムズという一人娘がおつて、きれいなお嬢さんでしたが、それが上智大学に入られたところまでは分かつて

学校の週一回の会議に必ず出てくるそうです。おかしいんじゃないか、三月三十一日まで栄のものじゃない、そう言ったんですが、京都育英館の人が入るいわれはないと思う。藤木 それを許すというのか、会議に出る理由というのは何でしょうかね。

**A氏** 分からないです、私も。そして教職員に、辞めたい人、残りたい人と、全部希望をとっている。ほとんどが残るようですが、二人かそこらは東京のほうの大学に引き取られるという。あと、駒澤一辺倒できたから私は辞めますという人も、また定年に近い人がばたんと辞めてしまったと、そういう話も聞いています。

**藤木** おっしゃる通りに、四月一日からということであれば分かりますけど、それ以前に仕切るといことはね。

**A氏** 大事な会議に必ず顔を出しているという、そのこと自体解せません。

て長谷部学長に会つてないようですが、もう先生、遠慮なさらずに、先生の思っている駒澤像なり、長谷部先生とお話しなさつた方がいいですよと、僕はそう申し上げているんですよ。

**A氏** そうですか。学長もよくなつて理事長も変わつて、だいぶ対応もよくなりました。私にすれば遅いですが、今まだ苦小牧高校があるわけ、これを守つていかなきゃならないという思いは強く持つて

学校の週一回の会議に必ず出てくるそうです。おかしいんじゃないか、三月三十一日まで栄のものじゃない、そう言ったんですが、京都育英館の人が入るいわれはないと思う。藤木 それを許すというのか、会議に出る理由というのは何でしょうかね。

**A氏** 分からないです、私も。そして教職員に、辞めたい人、残りたい人と、全部希望をとっている。ほとんどが残るようですが、二人かそこらは東京のほうの大学に引き取られるという。あと、駒澤一辺倒できたから私は辞めますという人も、また定年に近い人がばたんと辞めてしまったと、そういう話も聞いています。

**藤木** おっしゃる通りに、四月一日からということであれば分かりますけど、それ以前に仕切るといことはね。

**A氏** 大事な会議に必ず顔を出しているという、そのこと自体解せません。

学校の週一回の会議に必ず出てくるそうです。おかしいんじゃないか、三月三十一日まで栄のものじゃない、そう言ったんですが、京都育英館の人が入るいわれはないと思う。藤木 それを許すというのか、会議に出る理由というのは何でしょうかね。

**A氏** 分からないです、私も。そして教職員に、辞めたい人、残りたい人と、全部希望をとっている。ほとんどが残るようですが、二人かそこらは東京のほうの大学に引き取られるという。あと、駒澤一辺倒できたから私は辞めますという人も、また定年に近い人がばたんと辞めてしまったと、そういう話も聞いています。

**藤木** おっしゃる通りに、四月一日からということであれば分かりますけど、それ以前に仕切るといことはね。

**A氏** 大事な会議に必ず顔を出しているという、そのこと自体解せません。



大学構内に停められていた「Hokkaido SAKAE High School」のロゴが入った大型バス(平成30年3月14日撮影)

編集後記

苦小牧駒澤大学が京都育英館に移管して5か月になる。今号ではその経緯を取材したので掲載した。十二年位前から動きがあったと言うから驚きだ。この間大学の理事、監事の方々は気が付かなかったのだろうか。須川さんが八年間理事長に在職していた間に移管の手続きが内々に進んだようだ。聞くところによると須川さんは今でもいいことをやったと思っておられるようだ。確かに苦小牧駒澤大学への補助金が無くなったが。しかし、大学運営の改善策がことごとく否定されたとも聞

く。須川さんはこの事はご存じでしたか。移管先が東北福祉大学ならわかるが京都育英館では納得がいかない。誰もが裏では大きなものが動いていると考えても不思議ではない。デリバティブで百五十四億円の赤字を出したのは京都育英館に移管手続きを画策する側には好都合になった。このような大きな代償を払った駒澤大学経営陣はこの経験をどのように生かすのかだが、残念ながら何も変わっていない。ガバナンスの強化が一向になされていらないからである。ガバナンス問題は駒大だけで

はないが。Wedge August 2018号にオハイオ州の州立大学の理事をされている藤田浩之氏がアメリカの大学経営の中身を紹介されている。オハイオ州立大学は学生、教員、スタッフを合わせると十万人のマンモス校で、理事は十九人。その構成は様々で、例えば、人材開発、褒賞委員会、ガバナンス委員会などである。宗門は愛知学院大学、東北福祉大学を傘下に持つが、多々良学園、苦小牧駒澤大学を手放した今、例えば藤田浩之氏を招いて勉強すべきだ。でないとも十年後にはまた大きな危機が来ること必至だ。相手も動いている。そして受験生も大学の本质を見極めてく



ワイド 打ち水しましょ



41年の歴史に幕を下ろそうとしている

司法記者が話す。「原因は水族館側の賃料未払い。東京タワーを運営する日本電波塔と賃貸契約を結んでいたが、昨年11月から賃料が支払われず、未払い賃料が建物明け渡しや本電波塔の支払いを求めた。そのため今年3月、日本電波塔が建物明け渡しや未払い賃料の支払いを求めた。その結果、東京地裁に起こされた。」

裁判資料によると、賃料は月額約376万円。米客数の減少も著しく、とても支払える状態にないという。「水族館はすでに、明け渡しし、同意しているが、魚など生体の引取先探しと撤去費用の捻出のため、なんとか9月末まで閉館を待つてほしいと交渉しているよ」

「(前出・司法記者) 同水族館のスタッフに話を聞くと、「話が合っているようすが、詳しいことはわかりませんが、私たちが気持ちよく切り替え、水質管理やエサやりを続けていくしかありません。」

「サヤリを続けていくしかありません。」と力なく答えるのみ。2010年まで、東京タワーの入場者数は年間300万人超だった。しかし、スカイツリーが誕生した12年には約240万人と大幅ダウン。その後も低迷が続いている。その場りを受け

てしまったのだろうか。原告の日本電波塔は「法的措置に出る前に督促しましたが、未払い分をお支払いいただけず、やむなく裁判になりました。」と話す。展示されている約900種類・5万匹の魚と従業員の話の出所となった京都育英館はどう答えるか。松尾英孝理事長は、「駒大苦小牧の経営もできたらいいで、その結果、大学と別問題だから」と否定するものの、気になる言葉を付け加えた。

「ただ、駒澤さんが譲渡の意向を示し、先生たちが賛成ならば手を挙げたい。私から見れば高校も一緒にしたいです。」

「駒大苦小牧高校に尋ねると、(譲渡は)高校とは全く関係のない話で、聞いたこともありません。」(教頭)とのこと。

「ただ、駒澤さんが譲渡の意向を示し、先生たちが賛成ならば手を挙げたい。私から見れば高校も一緒にしたいです。」

「ただ、駒澤さんが譲渡の意向を示し、先生たちが賛成ならば手を挙げたい。私から見れば高校も一緒にしたいです。」

マー君の母校駒大苦小牧が中国系高校になる!?

南北海道大会の決勝に敗れ、春夏連続の甲子園出場が叶わなかった駒大苦小牧高。ヤンキースの田中将大投手を輩出した高校球界屈指の名門として知られる同校が、中国系になるという情報が駆け巡っている。

発端は、同じ駒大の系列校だった苦小牧駒澤大学が、受験生の減少などを理由に今年度から京都育英館に無償譲渡されたことだった。

京都育英館を設立した育英館は関西西語学院などを運営するほか、中国・瀋陽に東北育才外国語学校を展

開。経営陣に中国籍の理事2人が名を連ねることから、無償譲渡が決まった際に「苦小牧駒澤大が中国化する」という(産経新聞)。

「話のきっかけは、大学の無償譲渡が決まった後に京都育英館側が『高校のほうも我々にくれたい』と駒大本部に言ったこと。本気かどうかはさておき、可能性がゼロとはいえないだけに気にしている。大学の無償譲渡も、教職員への説明

「話のきっかけは、大学の無償譲渡が決まった後に京都育英館側が『高校のほうも我々にくれたい』と駒大本部に言ったこと。本気かどうかはさておき、可能性がゼロとはいえないだけに気にしている。大学の無償譲渡も、教職員への説明

週刊ポスト 7月30日発売号より

仏教企画通信

ご支援寺院名 H30.4.26~7.27

所在地	寺院名(個人名)	金額
福島県	普光寺	10,000
合計		10,000

手まり学園

寄附者御芳名 H30.4.26~7.27

所在地	寺院名(個人名)	金額
北海道	皓聖寺	10,000
神奈川県	青木義次(57)	7,000
兵庫県	観瀧山 岡本寺	10,000
東京都	砂金智佐(93)	3,000
静岡県	大雲院	5,000
神奈川県	青木義次(58)	7,000
兵庫県	永澤寺 渡邊義弘	20,000
東京都	砂金智佐(94)	3,000
神奈川県	青木義次(59)	7,000
神奈川県	翁長陽子	10,000
栃木県	満福寺	10,000
東京都	砂金智佐(95)	3,000
合計		95,000

仏教企画発行の刊行物

(\*部数により割引があります) すべて税別価格です

- 『修証義』解説 丸山劫外著 1,400円\*
- 『うたい継ごうよ、子守唄』 長田暁二・西館好子共著 1,200円\*
- 『まんが問答一期一話』 文平和宏昭 まんが垣内敬遠 1,200円\*
- 『道元禅より見たる般若心経解説』 長井龍遺著 2,200円
- 『葬送のしおり』 長井龍遺著 30円
- 修証義読本『生老病死』 須田道輝著 500円\*
- 『曹洞宗檀信徒經典』 須田道輝解説 300円\*
- 曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 靈元丈法著 140円\*
- 曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 靈元丈法著 150円\*

\*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

曹洞禅グラフ	
発行日	
春 彼岸号	2月20日
夏 お盆号	5月30日
秋 彼岸号	8月30日
冬 正月号	10月30日
1部 200円	
9部以下	200円
10部以上	150円に割引
20部以上	135円に割引
50部以上	130円に割引
100部以上	120円に割引
200部以上	110円に割引
300部以上	100円に割引
500部以上	90円に割引

仏教企画 新刊書のご紹介

ぶつねほんず 仏涅槃図の絵解き

高橋秀榮・平川恒太共著 A5版/16ページ(4色8ページ、1色8ページ)



定価(本体150円+税) 100冊以上ご購入の方は、本体価格より1割を引かせていただきます。

お申込み 〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5  
 TEL: 042-703-8641 FAX: 042-783-0989 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp  
 仏教企画 ※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客番号(コード)になります。お申込みは ①ご寺院名 ②お客番号 ③電話番号でも可能です。